

赤瓦景観シンポジウム

北國新聞 2012.8.26(日)

2年(平成24年) 8月26日 (日曜日)

北

赤瓦普及へ意見交換

加賀市シンポで調査報告

加賀市の「赤瓦景観」西村幸夫教授が基調講演「加賀市に期待すること」を行い、まちづくりに関心な人材が加賀市の宝であり活用すべきだと指摘した。



加賀市の「赤瓦景観」西村幸夫教授が基調講演「加賀市に期待すること」を行い、まちづくりに関心な人材が加賀市の宝であり活用すべきだと指摘した。

加賀市の「赤瓦景観」西村幸夫教授が基調講演「加賀市に期待すること」を行い、まちづくりに関心な人材が加賀市の宝であり活用すべきだと指摘した。

と山中児童センターを利用する児童が、山中地区の5路線で実施した赤瓦調査の結果を報告した。赤瓦は、調査区域内の家屋の約27%にしか使われておらず、1999(平成11)年撮影の航空写真と比較すると減少傾向にあると指摘。「まずは地元の子どもに赤瓦の存在を伝え、保護者らにその価値を再認識してもらってはどうか」と提案した。

パネルディスカッションでは、文化財保存計画協会(東京)の矢野和之代表とNPO法人歴町センター大聖寺した金大生の松岡稔明

の瀬戸達事務局長、山さんが意見を交わした。赤瓦景観フォトコンテストの表彰式も行われた。

敦子さん、赤瓦を調査